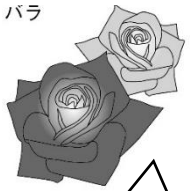
被子植物の体のつくりには，どのような特徴があるのだろうか

○　種子をつくる植物には，「被子植物」と「裸子植物」がありましたね。
では，被子植物のなかまには，それぞれどのような体のつくりの特徴をもっているのか，比べてみましょう。

＜花弁のつくり＞

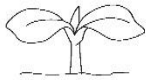


離弁花類（花弁が１枚ずつ離れている。）

合弁花類（花弁がくっついている。）

※　花弁のなかま分けは，双子葉類だけの特徴です。

＜子葉のようす＞

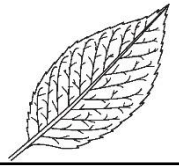


サクラ，アブラナ
エンドウ　など

ツユクサ，ユリ
など

※　発芽したときに，子葉が２枚（双子葉）のものと，１枚（単子葉）のものでなかま分けする。

＜葉のようす＞

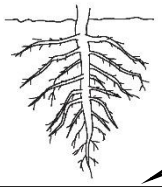


網状脈（双子葉類）

葉脈（ようみゃく）などと言っていますね。

平行脈（単子葉類）

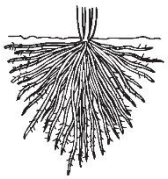
＜根のようす＞



ニンジンやダイコンなど

主根（太い根）と側根（細い根）

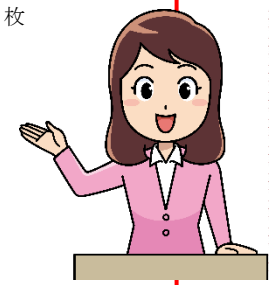
トウモロコシ，イネなど



ひげ根（同じ場所からたくさん出ている）

＜まとめ＞

- 被子植物
  - 双子葉類
    - ・子葉が２枚
    - ・主根と側根
    - ・網状脈
    - 離弁花類
    - 合弁花類
  - 単子葉類
    - ・子葉が１枚
    - ・ひげ根
    - ・平行脈



このように，被子植物のなかまには「花弁」「葉」「根」にそれぞれのつくりの特徴があり，なかま分けができます。